

令和5年度 第5回我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会 議事録

開催日時 令和6年1月22日 午前10時から11時20分まで

会 場 我孫子市水道局大会議室

出席者 委員12名、事務局11名（傍聴人1人）

【本議事録の表記に関して】

議事途中に出てくる学校名等について、次のとおり略記する。

布佐小学校：布小

布佐南小学校：南小

布佐中学校：布中

布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の総称：三校

1 開会

2 委員長挨拶

（省略）

3 提言書の確認

（委員長）本日が最後の検討委員会である。委員の皆様にはよろしくお願ひしたい。始めに、提言書案について事務局から説明を願う。

（事務局から提言書案、資料の内容を説明）

（委員長）事務局から提言書案の説明があった。委員の皆様から意見を伺い、それらを盛り込んで提言書は完成となるが、ご意見いかがか。

（委員）以前の会議でハザードマップに触れ、校舎を検討する上では安全面が重要であると意見した。その際は水害時の浸水について懸念していたが、今は加えて地震対策も特に重要だと思う。1月1日に能登半島地震があり、防災の面で学校は安全な場所でなくてはならないと改めて実感したところである。また、これからの学校をつくるのであれば、コミュニティ・スクールの面でも考えていただきたい。

（委員長）校舎建設時は、安全面とコミュニティ・スクールを踏まえた施設利用やソフト面での地域住民の関わり方などを検討する必要があるのではないかという意見であった。

(事務局) 学校施設を検討する上では、ハザードマップや地震等、災害時を想定して検討する必要がある。学校は児童生徒が安全に生活する場であるとともに、災害時は地域の防災拠点にもなるので、そのことは提言書の中にも謳っていききたい。また、コミュニティ・スクールについても検討したい。

(委員) 提言書の7ページに「各回概要」として会議等の内容が出ているが、委員の参加人数を併記した方が良いと思う。

(事務局) 追記します。

(委員長) 校舎の立地に関して提言書の中に盛り込まれていない。立地については、この会議の中でも布小か南小かなどと議論されてきたが、提言書に盛り込んだ方が良いか各委員に伺いたい。

(委員) 自身は盛り込んでほしいと思う。今後、大事なことだと思うのでお願いしたい。

(委員長) 本検討委員会として、校舎の立地は具体的に明言するか、又はそこまでは言及しないものか。校舎建設時には、ハザードマップや安全面に配慮してほしいという意見があり、それを踏まえて布小あたりの敷地を考えるとという方向か、それとも現時点では校舎の立地については触れない感じにするのか。

(委員) 校舎の立地を考える場合、水害対策、防災の面を考える必要がある。また、子どもたちが通える中心に置くべきではないか、という配慮が必要と考える。水害に対しては、自身は布佐の低地に住んでおり、避難の際は高台である布小近辺に避難することになる。子どもたちが学校に通う場合、三校の中心ということになれば、ある程度の平等は保たれるのではないかと考える。水害対策も考慮した場所が必要であると思う。

(委員長) 委員としては、今までの協議の方向性を考えると布小側という意識の方が強かったのではないか、という意見であった。本検討委員会としては、その辺を考えた方が良いのではないかという意見であり、校舎の立地に関して南小がゼロということではないものである。

(委員) この2年間、各委員の意見を伺い考えたことは、未来ある子どもたちに良い学校をつくっていただきたいということである。校舎の立地については、それ相応のきちんとした理由があり、決定後に疑問が残るのはよくない。どちらかに建設地が決定しても、具体的な理由(地震、水害、安全性、通学道路等)が必要である。

(委員長) 校舎の立地については、安全面への配慮が一番大きいということであり、こちらにしたらこういう配慮が必要で、あちらにしたら別の配慮が必要になる等は、当然出てくると思う。その辺も含めて提言書の中には少なからず盛り込んでいく必要があるのではという意見でよろしいか。(各委員了承)では、他の委員の意見を伺いたい。本検討委員会として、ベースとなるものはあるが、どちらでも良いという提言はできない。例えば、安全面を考えたならこちらの立地の方がベターなのではないかというような提言の仕方をするのか、その辺はどのような意見を持っているのか伺いたい。

(副委員長) 提言書の中では「三校を一体型小中一貫校に建て替えることが望ましい」と明記しているが、校舎の立地をどこにするまで触れるものなのか。

(教育長) 本検討委員会の中で、校舎の立地については踏み込まずに地震、洪水、水害等を考慮した安全な学校をつくるという形にするのであれば、そのような形でまとめたい。ただ、議論の中で布小の位置にとの話も出ていたので、それを具体的に載せた方が良いかどうかも検討してほしい。

(委員長) 基本には、災害に強い学校づくりとだけ提言の中に盛り込む形か、布小跡地を優先という形が良いのか伺いたい。

(委員) この2年間本検討委員会で議論していく中で、布中区は小中一貫教育を推進し、一体型小中一貫校への建て替えが良いと結論付けたものである。子どもたちのことを考えたとき、三校の中心が良い考えと、水害や地震対策も考えると、自身は一貫して布小という方向性で、各委員の意見を聞きながら自身の意見を述べてきたところである。自身の意見は決まっているが、他の委員はそのように考えて議論していなかったのか。不確定な状態で提案をするということは、自身としては納得できかねる。

(委員) 本検討委員会は、布中区の学校の在り方の方針を決定するのではなく、参考にする旨の主旨であると思う。委員の意見や議論した内容を参考に市が決定していくものだと思う。校舎の立地には、布小か南小が考えられるが、検討委員会内で議論した内容を参考にしてほしい。

(委員) 2年間検討してきた中では、布小及び布中の位置に校舎ができて、そこに南小をどのようにするのかという中でスクールバス等の問題があり、南小も一緒にしての話があったと思う。校舎の立地については、布佐小中の近辺が良いと思っている。逆に、南小の位置に建設するという話はまだ結論が出ていなかったと思う。検討委員会として内容をまとめた項目があると良いと思う。

(委員) これまでの経緯をみると、布小及び布中の方に建設する方向で決まりなのかなという思いであった。ただ、安全面を考えたときに、布小及び布中に建設するとなると、敷地の高低差の問題が残る。保護者目線で見ると、このような場所に建設予定である、と記載した方が分かりやすいのではないか。

(委員) 今までの話の流れからすると布小及び布中の方に建設するような流れで話が進んでいるというイメージで参加していた。個人的な意見としては、居住が南新木のため、かなりの人数が学区変更で新木小や湖北中に就学している。他の保護者からの意見を聞くと、南小は今後合併するから、新木小に就学するという話がもう何年も前からあったようだ。南新木の保護者には、このような意見がある以上、南小側に学校をつくって、新木小に学区変更をしなくても済むように、三校一体型の学校を建設していただきたいという思いを込めて参加していた。防災や通学の面からしても、南小に一体型の校舎を建設し、学区外で他校へ就学した児童生徒が戻ってくるような環境をつくってほしい。

(委員) これまでの検討を経て、本検討委員会では三校を一体型小中一貫校に建て替える方向性で良いというニーズだと思っており、当然、各々の考えがあるのは認識している。その中で、場所については触れない方向なのかなとは個人的には感じていた。というのも、三校を一体型小中一貫校にすると教育委員会に提言をして、おそらく最初に出てくるのが校舎の立地の話になると思う。三校を一体型小中一貫校へという方針が世に出たときに、住民の皆さんの一番の関心も校舎の立地のことだと思うが、それは次の段階であり、それを検討する際には情報が足りないというのが正直なところである。他の委員が話したように、水害だけでなく、防災面での地震や地盤の情報であったり、そういったものを踏まえて総合的にみて安全性に配慮し、立地を決める必要があるというのは、当然盛り込んでしかるべきだと思う。是非を問うにはまだ情報が不足しているというのが正直なところである。また、自身が思うのは、今後必要な情報が整理されたところで、地震に対しての地盤の状況なども分かってくると思う。南小及び布小の立地で、布小の方が高台にあるので水害に対して強いというのは明らかであるが、地盤の状況や高低差の造成を行えば、適切な対策はできるだろうが、それが是か非かというのは現段階では情報がないため定かではない。1月の能登半島地震を踏まえて、安全性が重要であることが、今、留めておくべきではないかというのが自身の意見である。

(委員) 三校を一体と考えたときに、どうするかということが一番の課題だと思う。自身も三校一体になって一つの校舎を建てれば良いと思っている。ただ、設置場所について、一番大事なのは安全性であり、三校とも40数年以上の年数が経つことから、それも踏まえて三校一体型の校舎を建てるという形での提案で良いと考える。

(委員) 方向性として、三校一体型の小中一貫校ということで、この提言を出すことで良いと思う。校舎の立地については、他の委員からもあったように、この提言書の中で言及する必要はないと思う。また、校舎の立地については、最悪を想定して考えていただきたい。最悪とは、利根川の氾濫まで含めないといけない。最近の夏のゲリラ豪雨時でさえ、排水が間に合わない場合は車のタイヤの半分ぐらいまで水が浸かる場合がある。そのような状況下で、地域の方に来校していただくことはできない状況のため、校舎の立地については、災害を考えた場合、最悪を想定した中で決定していただきたい。

(委員) 自身も同意見である。本検討委員会では重点が二つあり、小中一貫教育の推進と学校の適正規模における新しい学校施設ということで、協議を重ねてきた。校舎の立地についてのイメージ的なものは、各委員がそれぞれに思うところがあると思う。校舎の立地については、ハザードマップでの印象でしかわからない部分もあり、建設時には具体的な数値を基に総合的に判断しなければならないが、検討する材料や話し合いがなかったのではないかと思う。内容については、例えば安全面の配慮や、小中一貫教育の内容等というところでの提言で止めてはと考える。

(委員) 自身も他の委員と同じ意見である。検討視点と施設形態のメリットデメリット表の「地域」の視点からみた「防災」についての③記載の文書を読む限りでは、各委員のイメージ的には布小のところに建設するのではないかというイメージを持たれていたのは事実だと思う。しかしながら、本検討委員会では、場所を指定する必要はないと思う。

(副委員長) 布佐中学校区は、他の地域に先駆けて、小中一貫教育の推進を進めている学区であり、それをみても三校を一体型小中一貫校への方針は当然であると考え。校舎の立地については、他の委員が話されたとおりであり、提言書には具体的には盛り込まなくて良いと思う。まだ先の話であるが、新しい校舎建設時には、現在ある古い校舎の跡地活用の問題が出てくる。これは、本

検討委員会で踏み込んで議論することではないが、企業誘致や人々を呼び込める施設、施策等の市にとっての費用対効果も考える必要があると思う。

(事務局) 校舎の立地に関する意見については、提言書の5ページ「検討内容のまとめ」などに追記したい。立地の条件としては校舎の安全性が第一優先であり、ハザードマップや地震災害時の防災の拠点ともなることから、いろいろな側面を含めて検討する必要があるということで取りまとめたい。

(委員全員了承)

4 閉会（教育長挨拶）

委員の皆様には、この2年間、布中区の子どもたちのよりよい学習環境を目指して会議や視察に参加いただき、貴重な意見を賜り感謝申し上げます。本日いただいた意見に関しては提言書の中に盛り込むようにし、校舎の立地についての項目立ては検討させていただきたい。どこにその文言を入れるかに関しては、事務局で検討し、とりまとめた内容を送付するので確認を願いたい。

前回（令和5年11月13日開催）の検討委員会で、令和6年3月末には公にしたいという説明をしたが訂正を願いたい。本日の意見を反映して委員の方々に確認を取り、提言書をいただくのが2月に入ってからとなる。2月21日から始まる市議会では、今年度中に検討委員会からの提言書をいただき、その提言書を基に今後進めていくと説明したい。今後については、事務局と教育委員も交えて課題や整理事項を検討し、その後、市長を含めた総合教育会議で議論を重ねた中で公表という形になる。

校舎の立地場所については、その地区ごとにいろいろなことがあるかもしれないが、総合的に判断した中で、設置者である市長及び、教育委員会の方で決定していきたい。

この2年間、委員の皆様には、立場的につらい思いもされた方もいるのではないかと推察する。しかしながら、委員の皆様が同じ方向を向いて子どもたちのために議論している姿をみて、自身もとても勉強になり、是非実現していきたい。本検討委員会では、三校を一体型小中一貫校へ、とする提言をいただいております。会議の中では義務教育学校の説明もしてきたところである。そのため、小中一貫教育を行う公立学校の分類としては、義務教育学校をつくっていききたいと思う。

改めて、2年間における検討委員会での活動について感謝申し上げます。後日、委員長、副委員長から提言書をいただくことになるが、布中区のより良い学習環境のための学校をつくっていきたい。

(以上)